

SECでのEPM実証実験 (SEC先進プロジェクト)と IPAによるEPM普及施策の状況

2006-10-16

神谷芳樹

IPA/ソフトウェア・エンジニアリング・センター (SEC) 研究員
奈良先端科学技術大学院大学 (EASEプロジェクト) 研究員

1

SEC先進ソフトウェア開発プロジェクトとは

- 先進的な経済社会の基盤として機能するソフトウェア、
具体的には、ITSプラットフォームとして
プローブ情報プラットフォームソフトウェアの開発を
ソフトウェアエンジニアリング技術研究組合 (COSE) にて進める



- 当該ソフトウェア開発を進める中で、EASEプロジェクトの
協力得て、SECが**ソフトウェアエンジニアリングに沿った手法**を
適用する



2

プローブ情報プラットフォームソフトウェアの概要

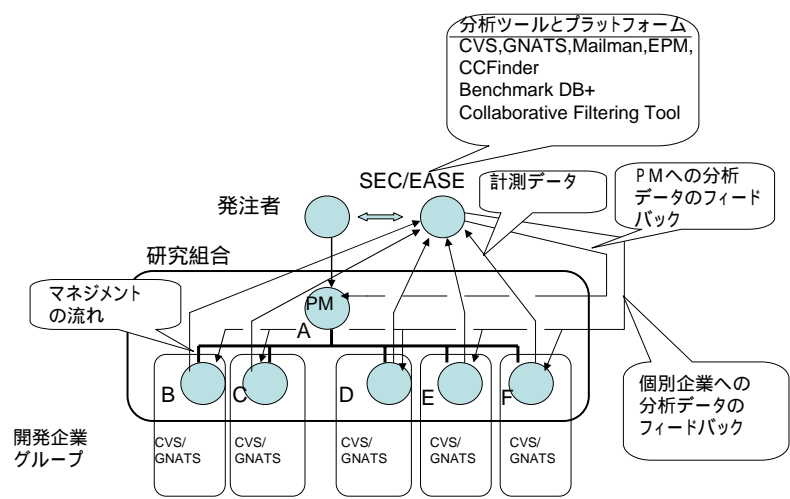
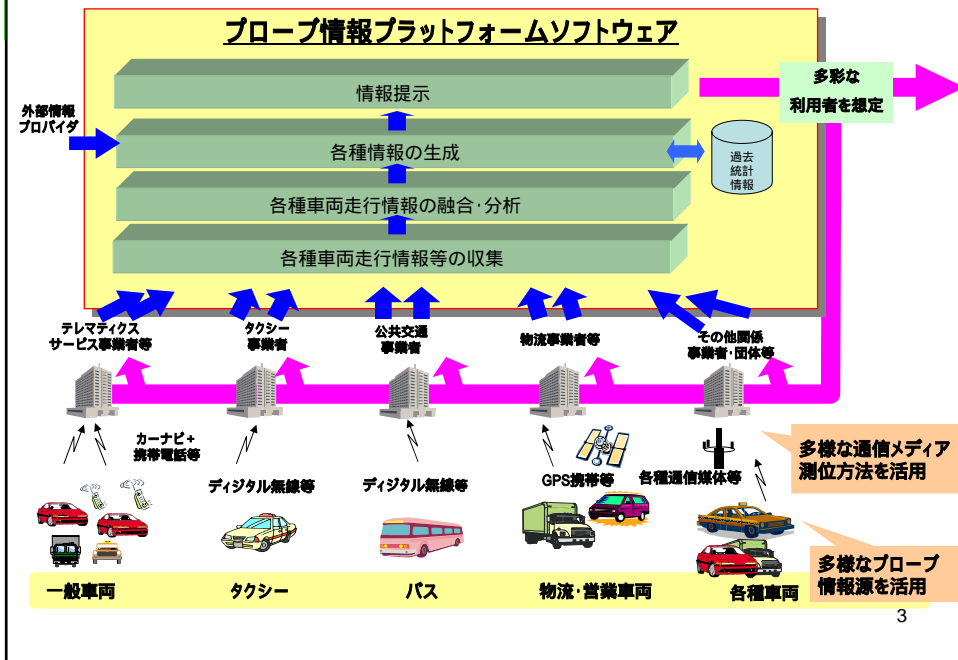


図 プロジェクト計測とフィードバックの枠組み

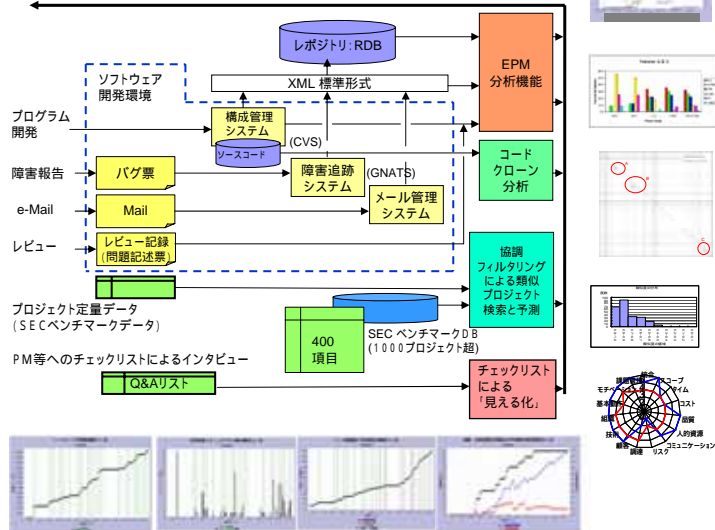
枠組みの特徴

- 研究組合型開発方式としては標準的
- 元請型開発方式の多くの特徴を合わせ持つ
 - マルチベンダ広域開発
- 情報：協調領域と競争領域を峻別
 - 協調領域の情報：共有
 - 競争領域の情報：秘匿
- 社別に秘匿される情報
 - ソースコード、SLOC、生産性関連情報、詳細設計
 - ただし、PMにはSLOCは提示される
- PMには、ある種のブラインドマネジメントが求められる
- SECが提供を受ける情報は、研究用途に限定して利用する
- SECは機密室等を用意し、情報管理を行う

5

進行中のプロジェクト計測の構成

プロジェクトマネジメントへのフィードバック



6

EASEプロジェクトにとっての有力な入力チャネル

プローブ情報プラットフォームソフトウェア開発の事業計画

年度	H16 °	H17 °	H18 °
プローブ情報プラットフォームソフトウェアの開発		一次開発	
		実証実験1	
			二次開発
			実証実験2
ソフトウェアエンジニアリング(SE)の実践	SE適用検討		
		SE適用・評価	
			SEのフィードバック・評価

二次開発(今年度)の狙い

- 分析の自動化
- データの読み方ガイド
- 上流ドキュメントの分析
- ITスキル標準によるチーム評価の導入
- 新手法の試行

ターゲットプロジェクトの条件

一次開発: 比較的新規開発

各社担当のサブシステムを連結して稼働させる

二次開発: 新規追加 + 構造整備(改造)

社間でオブジェクト提供

→ よりリアルなプロジェクト

(計測・分析・フィードバック行為の開発プロジェクトへの組み込み)

- プローブシステムの公開デモ計画 (2月予定)



(1)



(2)



(3)



ソフトウェア開発見取りガイドブック
—ユーザーとベンダにおける定量データ分析の実際—



SECの活動 先進プロジェクト(1)
見える化部会(2)
定量データ分析部会(3)
見積もり部会(4)

他にSECjournal

(4)

EASEプロジェクトにとっての有力な出力チャネル

IPA(情報処理推進機構) 公募事業

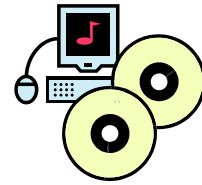
「ソフトウェア開発プロジェクト可視化ツールの パッケージ化(EPMツール)」

- IPAの開発支援事業：(扱い)IPA開発支援部
 - ソフトウェア 開発技法普及ツール開発事業の一環
 - SEC:公募要領作成支援ほか継続的に協力
- 公募内容(IPA-Webサイト参照)
 - EPM配布キットの実現:オープンソース版を再評価し、これを母体に、追加、改造、入れ替え
 - 検証作業 + 事業化の提案
- 開発統括責任者：
 - 松本健一教授(奈良先端大)にIPAより委嘱
- 開発担当 (敬称略)
 - 日立システムアンドサービス
 - EPMコンソーシアム
 - 日立システムアンドサービス、NTTソフトウェア、SRA先端技術研究所、日立公共システムエンジニアリング
 - 横河デジタル
 - キャッツ

EPMツールの配布キット化の狙い

- ソフトとして企業の使用に耐えること
 - 堅牢性、拡張性...
 - セキュリティ
- インストールしやすいこと
- 検証済み
 - Linux Distribution
 - Hardware
- 使いやすいこと
- 豊富な分析ツール
- 適用範囲拡大 Subversion, 影舞
- サポート
 - 導入サポート、初期運用サポート
 - マニュアル、シナリオ
 - セキュリティパッチ
- オフショアリング対応
- さらに(予定)
 - 同梱: 協調フィルタリングツール試供版
 - 同梱: コードクローン分析ツールCCFinder試供版(神谷年洋氏)

C/S型に
Eclipseを介して



パッケージソフト
として
当たり前の品質

2006年12月
完成予定

11

IPAの2008年の計画(今回の公募の一部)

2008年1月～

- EPMツールの検証活動
 - 10プロジェクト以上に適用し、実質的にSEC先進プロジェクト型の実証実験を実施したい
 - 開発側の担当体制は、開発時を引き継ぐ
 - エンタープライズ系と組込みソフト系分野を開拓する

キャッツ殿ESEC参考出展:2006 - 6

